農林水産統計
Statistics of Agriculture, Forestry and Fisheries

農林水産省
北陸農政局

令和８年11月20日
統　計　部　公　表

作物統計調査
令和８年産水稲の作付面積及び10月25日現在の予想収穫量（北陸）

令和８年産主食用米の予想収穫量（生産者ふるい目幅ベース）は
94万4,400トンで前年産に比べ２万5,900トン減少の見込み

【調査結果の概要】

1　令和８年産の水稲の10月25日現在の生産者ふるい目幅ベース※の予想収穫量（主食用）は94万4,400ｔで、前年産に比べ２万5,900ｔ減少と見込まれる。

※　令和８年産の生産者が使用しているふるい目幅は、新潟県は1.85㎜、富山県、石川県及び福井県は1.90㎜

これは、

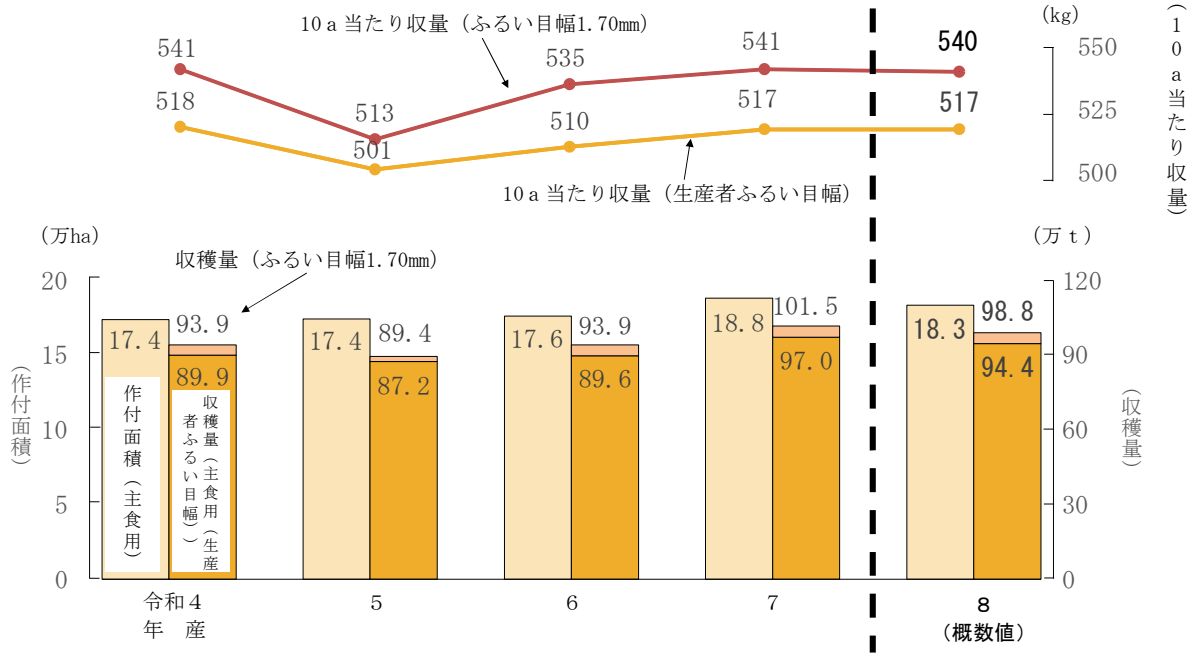
①　作付面積（主食用）が、備蓄米等への転換等があったため、18万3,000haで、前年産に比べ4,700ha減少となったこと、

②　10月25日現在における北陸の10ａ当たり予想収量（生産者ふるい目幅ベース）は517kg（前年産と同じ）が見込まれるためである。

2　北陸の作況単収指数は101と見込まれる。

3　なお、ふるい目幅1.70㎜ベースの10ａ当たり予想収量は540kgで、前年産に比べ１kg減少と見込まれ、予想収穫量（主食用）は98万8,200ｔで、前年産に比べ２万6,800ｔ減少と見込まれる。

図１　水稲の作付面積（主食用）、10ａ当たり収量及び収穫量の推移（北陸）



◎累年データ

水稲の年次別推移（北陸）

年　産	作付面積（主食用）	生産者が使用しているふるい目幅で選別			ふるい目幅1.70㎜で選別			作付面積（子実用）	ふるい目幅1.70㎜で選別	作況単収指数（生産者ふるい目幅）
		10ａ当たり収量	対前年比	収穫量（主食用（生産者ふるい上米））	10ａ当たり収量	対前年比	収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））		収穫量（子実用）	
	ha	kg	%	t	kg	%	t	ha	t	
平成28年産	182,100	553	108	1,005,000	567	107	1,031,000	205,600	1,165,000	…
29	180,100	509	92	916,400	529	93	952,100	204,100	1,079,000	…
30	184,800	508	100	938,000	533	101	985,300	205,600	1,096,000	…
令和元	186,400	526	104	980,000	540	101	1,007,000	206,500	1,115,000	…
2	185,900	531	101	984,600	550	102	1,021,000	206,400	1,135,000	103
3	177,900	505	95	899,100	531	97	944,600	201,800	1,072,000	97
4	173,500	518	103	898,700	541	102	938,800	198,200	1,072,000	101
5	174,000	501	97	872,200	513	95	894,000	197,700	1,015,000	97
6	175,800	510	102	896,000	535	104	938,800	197,000	1,053,000	99
7	187,700	517	101	970,300	541	101	1,015,000	200,700	1,085,000	101
8（概数値）	**183,000**	**517**	**100**	**944,400**	**540**	**100**	**988,200**	**205,000**	**1,108,000**	**101**

資料：農林水産省統計部『作物統計』

注：1　作付面積（主食用）とは、青刈り面積を含めた水稲全体の作付面積から備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。

2　作付面積（子実用）とは、青刈り面積を含めた水稲全体の作付面積から青刈り面積（飼料用米・WCS用稲等を含む。）を除いた面積である。

3　生産者が使用しているふるい目幅で選別された10ａ当たり収量及び収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は、生産者が使用しているふるい目幅で選別された玄米の重量である。

4　生産者が使用しているふるい目幅は、以下による。

平成28年産から令和元年産まで	北陸地域で過去５か年に生産者が使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて９割を占めるまでの目幅である。
令和２年産以降	各県ごとに、過去５か年に生産者が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅である。

5　収穫量（主食用）として公表していたふるい目幅1.70㎜の収穫量（主食用）は、令和７年産以降、収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））と表記することとした。

6　作況単収指数は、当年産に生産者が使用しているふるい目幅を基準とし、各年における前年産までの５か年中３年平均（最高、最低除く）に対する10ａ当たり収量の比率を算出。

7　「…」は、事実不詳又は調査を欠くことを示している。

◎県別累年データ

水稲の年次別推移（新潟県）

年　産	作付面積（主食用）	生産者が使用しているふるい目幅で選別			ふるい目幅1.70㎜で選別			作付面積（子実用）	ふるい目幅1.70㎜で選別	作況単収指数（生産者ふるい目幅）
		10ａ当たり収量	対前年比	収穫量（主食用（生産者ふるい上米））	10ａ当たり収量	対前年比	収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））		収穫量（子実用）	
	ha	kg	%	t	kg	%	t	ha	t	
平成28年産	101,500	565	111	573,500	581	110	589,700	116,800	678,600	…
29	100,300	505	89	506,500	526	91	527,600	116,300	611,700	…
30	104,700	500	99	523,500	531	101	556,000	118,200	627,600	…
令和元	106,800	530	106	566,000	542	102	578,900	119,200	646,100	…
2	106,700	542	102	578,300	558	103	595,400	119,500	666,800	105
3	101,800	507	94	516,100	529	95	538,500	117,200	620,000	96
4	99,900	525	104	524,500	544	103	543,500	116,000	631,000	102
5	100,600	502	96	505,000	511	94	514,100	115,800	591,700	96
6	101,400	515	103	522,200	536	105	543,500	116,200	622,800	99
7	108,600	525	102	570,200	542	101	588,600	117,700	637,900	102
8（概数値）	**104,400**	**518**	**99**	**540,800**	**535**	**99**	**558,500**	**118,800**	**635,600**	**100**

注：1　生産者が使用しているふるい目幅は、平成 28 年産～令和8年産は 1.85㎜。

2　各県の作況単収指数（生産者ふるい目幅）の算出に用いた過去の 10a 当たり収量及び5中3平均値は、【統計表】【参考】各県の各年作況単収指数算出に必要な 10a 当たり収量データに記載している（以下同じ。）。

◎県別累年データ（続き）

水稲の年次別推移（富山県）

年　産	作付面積（主食用）	生産者が使用しているふるい目幅で選別			ふるい目幅1.70㎜で選別			作付面積（子実用）	ふるい目幅1.70㎜で選別	作況単収指数（生産者ふるい目幅）
		10ａ当たり収量	対前年比	収穫量（主食用（生産者ふるい上米））	10ａ当たり収量	対前年比	収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））		収穫量（子実用）	
	ha	kg	%	t	kg	%	t	ha	t	
平成28年産	33,800	555	102	187,600	566	101	191,300	38,100	215,600	…
29	33,300	528	95	175,800	546	96	181,800	37,600	205,300	…
30	33,300	535	101	178,200	552	101	183,800	37,300	205,900	…
令和元	33,300	540	101	179,800	553	100	184,100	37,200	205,700	…
2	33,200	535	99	177,600	556	101	184,600	37,100	206,300	102
3	32,200	515	96	165,800	551	99	177,400	36,300	200,000	98
4	31,300	523	102	163,700	556	101	174,000	35,500	197,400	101
5	31,200	511	98	159,400	528	95	164,700	35,200	185,900	98
6	31,200	515	101	160,700	540	102	168,500	35,000	189,000	99
7	33,700	512	99	172,500	547	101	184,300	35,600	194,700	99
8（概数値）	**33,400**	**524**	**102**	**175,000**	**562**	**103**	**187,700**	**37,100**	**208,500**	**102**

注：　生産者が使用しているふるい目幅は、平成 28 年産～令和元年産は 1.85㎜、令和2年産～8年産は 1.90㎜。

水稲の年次別推移（石川県）

年　産	作付面積（主食用）	生産者が使用しているふるい目幅で選別			ふるい目幅1.70㎜で選別			作付面積（子実用）	ふるい目幅1.70㎜で選別	作況単収指数（生産者ふるい目幅）
		10ａ当たり収量	対前年比	収穫量（主食用（生産者ふるい上米））	10ａ当たり収量	対前年比	収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））		収穫量（子実用）	
	ha	kg	%	t	kg	%	t	ha	t	
平成28年産	23,200	525	103	121,800	534	102	123,900	25,600	136,700	…
29	23,200	504	96	116,900	519	97	120,400	25,300	131,300	…
30	23,200	507	101	117,600	519	100	120,400	25,100	130,300	…
令和元	22,700	515	102	116,900	532	103	120,800	25,000	133,000	…
2	22,600	515	100	116,400	530	100	119,800	24,800	131,400	101
3	21,400	512	99	109,600	527	99	112,800	23,800	125,400	100
4	20,700	515	101	106,600	532	101	110,100	23,100	122,900	101
5	20,800	508	99	105,700	518	97	107,700	23,400	121,200	99
6	21,200	495	97	104,900	521	101	110,500	22,300	116,200	99
7	22,100	507	102	112,000	532	102	117,600	22,900	121,800	101
8（概数値）	**21,300**	**512**	**101**	**109,100**	**538**	**101**	**114,600**	**23,500**	**126,400**	**102**

注：　生産者が使用しているふるい目幅は、平成 28 年産～令和5年産は 1.85㎜、令和6年産～8年産は 1.90㎜。

水稲の年次別推移（福井県）

年　産	作付面積（主食用）	生産者が使用しているふるい目幅で選別			ふるい目幅1.70㎜で選別			作付面積（子実用）	ふるい目幅1.70㎜で選別	作況単収指数（生産者ふるい目幅）
		10ａ当たり収量	対前年比	収穫量（主食用（生産者ふるい上米））	10ａ当たり収量	対前年比	収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））		収穫量（子実用）	
	ha	kg	%	t	kg	%	t	ha	t	
平成28年産	23,600	518	105	122,200	535	103	126,300	25,100	134,300	…
29	23,300	503	97	117,200	525	98	122,300	24,900	130,700	…
30	23,600	503	100	118,700	530	101	125,100	25,000	132,500	…
令和元	23,600	497	99	117,300	520	98	122,700	25,100	130,500	…
2	23,300	482	97	112,300	518	100	120,700	25,100	130,000	99
3	22,500	478	99	107,600	515	99	115,900	24,500	126,200	98
4	21,600	481	101	103,900	515	100	111,200	23,500	121,000	100
5	21,500	475	99	102,100	500	97	107,500	23,300	116,500	99
6	21,900	494	104	108,200	531	106	116,300	23,500	124,800	103
7	23,300	496	100	115,600	532	100	124,000	24,500	130,300	103
8（概数値）	**23,900**	**500**	**101**	**119,500**	**533**	**100**	**127,400**	**25,700**	**137,000**	**103**

注：　生産者が使用しているふるい目幅は、平成 28 年産～令和元年産は 1.85㎜、令和2年産～8年産は 1.90㎜。

水稲玄米のふるい目幅別重量分布状況、10ａ当たり収量及び収穫量(主食用)

生産者等が販売するために使用しているふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、参考として、ふるい目幅別の重量割合の概数値並びにふるい目幅別10ａ当たり収量及び収穫量（主食用）の概数値を示すと次のとおりである。

本調査では、農産物規格規程に定める三等以上の玄米の重量を把握しており、未熟粒・被害粒等の混入が多く、農産物規格規程に定める三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいる。

表１　ふるい目幅別重量分布状況の推移（北陸）

単位：％

年　産	計	1.70㎜以上 1.75㎜未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00㎜ 以上
令和　3　年産	100.0	0.9	1.4	1.6	3.1	16.1	76.9
4	100.0	0.9	1.2	1.4	2.6	13.1	80.8
5	100.0	0.4	0.6	0.9	1.9	10.1	86.1
6	100.0	0.9	1.3	1.5	2.8	13.2	80.3
7	100.0	0.8	1.1	1.4	2.6	12.4	81.7
8　（概数値）	**100.0**	**0.7**	**1.1**	**1.4**	**2.7**	**13.7**	**80.4**
対前年差(ﾎﾟｲﾝﾄ)	0.0	△ 0.1	0.0	0.0	0.1	1.3	△ 1.3

注：ふるい目幅別重量分布とは、それぞれのふるい目幅毎の玄米の重量割合である(以下同じ。)。

表２　ふるい目幅別10ａ当たり収量及び収穫量（主食用）の推移（北陸）

年　産		単位	1.70㎜ 以　上	1.75㎜ 以　上	1.80㎜ 以　上	1.85㎜ 以　上	1.90㎜ 以　上	2.00㎜ 以　上
令和３年産	10ａ当たり収量	kg	531	526	519	510	494	408
	収穫量（主食用）	t	944,600	936,100	922,900	907,800	878,500	726,400
4	10ａ当たり収量	kg	541	536	530	522	508	437
	収穫量（主食用）	t	938,800	930,400	919,100	905,900	881,500	758,600
5	10ａ当たり収量	kg	513	511	508	503	494	442
	収穫量（主食用）	t	894,000	890,400	885,100	877,000	860,000	769,700
6	10ａ当たり収量	kg	535	530	523	515	500	430
	収穫量（主食用）	t	938,800	930,400	918,100	904,100	877,800	753,900
7	10ａ当たり収量	kg	541	537	531	523	509	443
	収穫量（主食用）	t	1,015,000	1,006,000	994,900	981,300	956,000	831,100
8（概数値）	**10ａ当たり収量**	kg	**540**	**536**	**530**	**522**	**508**	**434**
	収穫量（主食用）	t	**988,200**	**981,400**	**970,200**	**956,000**	**929,300**	**793,500**
	対前年比（収穫量（主食用））	%	97	98	98	97	97	95

注：ふるい目幅別の収穫量（主食用）の北陸値は、県ごとの収穫量（主食用）の積上げである。

【調査結果】

1　令和８年産水稲の主食用作付面積は18万3,000ha（前年産に比べ4,700ha減少）となった。これは、備蓄米等への転換があったことにより減少したためである。

2　生産者ふるい目幅ベースの10a当たり予想収量は、517kg（前年産と同じ）と見込まれる。これを県別にみると、新潟県は518kg（前年産に比べ７kg減少）、富山県は524kg（同12kg増加）、石川県は512kg（同５kg増加）、福井県は500kg（同４kg増加）と見込まれる。

3　主食用作付面積に10ａ当たり予想収量を乗じた生産者ふるい目幅ベースの予想収穫量（主食用）は94万4,400ｔ（前年産に比べ２万5,900ｔ減少）と見込まれる。

4　北陸の作況単収指数は101と見込まれる。これを県別にみると、新潟県は100、富山県は102、石川県は102、福井県は103と見込まれる。

5　なお、ふるい目幅1.70㎜ベースの10ａ当たり予想収量は540kg（前年産に比べ１kg減少）と見込まれ、予想収穫量（主食用）は98万8,200ｔ（同２万6,800ｔ減少）と見込まれる。

6　子実用作付面積は 20 万 5,000ha（前年産に比べ 4,300ha 増加）となり、ふるい目幅 1.70㎜ベースの予想収穫量（子実用）は、110 万 8,000ｔ（同２万 3,000ｔ増加）と見込まれる。

表３　令和８年産水稲の作付面積及び 10 月 25 日現在の予想収穫量

区分	作付面積（主食用）			生産者が使用しているふるい目幅で選別					ふるい目幅1.70㎜で選別				
	実数 ①	前年産との比較		10ａ当たり予想収量		予想収穫量（主食用（生産者ふるい上米））			10ａ当たり予想収量		予想収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））		
				実数 ②	前年産との比較	実数 ③=①×②	前年産との比較		実数 ④	前年産との比較	実数 ⑤=①×④	前年産との比較	
		対差	対比		対差		対差	対比		対差		対差	対比
	ha	ha	%	kg	kg	t	t	%	kg	kg	t	t	%
北陸	183,000	△4,700	97	517	0	944,400	△25,900	97	540	△ 1	988,200	△26,800	97
新潟県	104,400	△4,200	96	518	△ 7	540,800	△29,400	95	535	△ 7	558,500	△30,100	95
富山県	33,400	△ 300	99	524	12	175,000	2,500	101	562	15	187,700	3,400	102
石川県	21,300	△ 800	96	512	5	109,100	△ 2,900	97	538	6	114,600	△ 3,000	97
福井県	23,900	600	103	500	4	119,500	3,900	103	533	1	127,400	3,400	103

区分	作付面積（子実用）			ふるい目幅1.70㎜で選別			主な収量構成要素（前年比較）								作況単収指数
	実数 ⑥	前年産との比較		予想収穫量（子実用）			１㎡当たり穂数の多少		１穂当たりもみ数の多少		１㎡当たり全もみ数の多少		千もみ当たり収量の多少（登熟）		
				実数 ⑦=⑥×④	前年産との比較										
		対差	対比		対差	対比	本年	前年値	本年	前年値	本年	前年値	本年	前年値	
	ha	ha	%	t	t	%		本		粒		100粒		g	
北陸	205,000	4,300	102	1,108,000	23,000	102	多い	367	やや少ない	80.1	やや多い	294	やや少ない	18.0	101
新潟県	118,800	1,100	101	635,600	△ 2,300	100	多い	356	少ない	82.3	前年並み	293	やや少ない	18.3	100
富山県	37,100	1,500	104	208,500	13,800	107	多い	374	やや少ない	78.3	やや多い	293	やや少ない	17.8	102
石川県	23,500	600	103	126,400	4,600	104	やや多い	383	前年並み	76.8	前年並み	294	前年並み	17.6	102
福井県	25,700	1,200	105	137,000	6,700	105	多い	398	やや少ない	76.1	やや多い	303	前年並み	16.7	103

注：1　作付面積（主食用）とは、青刈り面積を含めた水稲全体の作付面積から備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。

2　生産者が使用しているふるい目幅で選別された10ａ当たり予想収量（②）及び予想収穫量（主食用（生産者ふるい上米））（③）は、生産者が使用しているふるい目幅で選別された玄米の重量である。

3　生産者が使用しているふるい目幅で選別の10ａ当たり予想収量については、各県ごとに、過去５か年に生産者が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出した数値である。

4　ふるい目幅1.70㎜で選別された10ａ当たり予想収量（④）、予想収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））（⑤）及び予想収穫量（子実用）（⑦）は1.70㎜のふるい目幅で選別された玄米の重量である。

5　予想収穫量の北陸値については県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。

6　作付面積(子実用)とは、青刈り面積を含めた水稲全体の作付面積から、青刈り面積（飼料用米・WCS用稲等を含む。）を除いた面積である。

7　千もみ当たり収量の多少（登熟）は、生産者が使用しているふるい目幅で選別された玄米の重量である。

8　主な収量構成要素の前年比較区分は、「多い」が対前年比106%以上、「やや多い」が105～102%、「前年並み」が101～99%、「やや少ない」が98～95%、「少ない」が94%以下に相当する。

9　作況単収指数は、生産者が使用しているふるい目幅ベースで算出した10ａ当たり収量の前年産までの５か年中３年平均（最高、最低除く）に対する10ａ当たり予想収量の比率である。

表４　令和８年産水稲玄米のふるい目幅別重量分布状況（10 月 25 日現在）

単位：％

区分		計	1.70㎜以上 1.75㎜未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00㎜ 以上
北陸	重量割合	100.0	0.7	1.1	1.4	2.7	13.7	80.4
	前年値	100.0	0.8	1.1	1.4	2.6	12.4	81.7
	対前年差(ﾎﾟｲﾝﾄ)	0.0	△ 0.1	0.0	0.0	0.1	1.3	△ 1.3
新潟県	重量割合	100.0	0.7	1.1	1.4	2.7	14.5	79.6
	前年値	100.0	0.8	1.1	1.4	2.5	12.3	81.9
	対前年差(ﾎﾟｲﾝﾄ)	0.0	△ 0.1	0.0	0.0	0.2	2.2	△ 2.3
富山県	重量割合	100.0	0.7	1.2	1.7	3.2	14.2	79.0
	前年値	100.0	0.8	1.1	1.7	3.2	13.3	79.9
	対前年差(ﾎﾟｲﾝﾄ)	0.0	△ 0.1	0.1	0.0	0.0	0.9	△ 0.9
石川県	重量割合	100.0	0.6	1.0	1.2	2.0	8.6	86.6
	前年値	100.0	0.6	1.0	1.1	2.0	10.5	84.8
	対前年差(ﾎﾟｲﾝﾄ)	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	△ 1.9	1.8
福井県	重量割合	100.0	0.7	1.3	1.5	2.9	14.7	78.9
	前年値	100.0	1.0	1.4	1.6	3.0	13.1	79.9
	対前年差(ﾎﾟｲﾝﾄ)	0.0	△ 0.3	△ 0.1	△ 0.1	△ 0.1	1.6	△ 1.0

表５　令和８年産水稲の玄米品位の状況（10 月 25 日現在）

単位：％

区分	白未熟粒	死米	胴割粒	着色粒
北陸	2.6	0.2	0.7	0.1

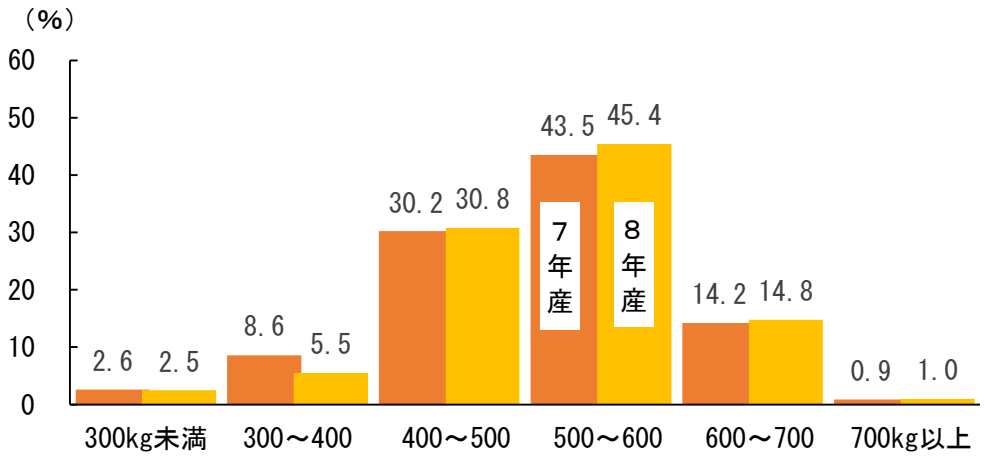
注：１　水稲作況標本筆の刈取試料（生産者が使用しているふるい目幅で選別した玄米）を、筆ごとに穀粒判別器を用いて品位分析を行い、その結果を集計したものであり、調製のうえ販売される玄米の品位とは異なる。

２　白未熟粒は白色不透明な部分の大きさが粒平面の１／２以上のものである粒、死米は粉状質で光沢がないものが２／３以上を占める粒、胴割粒は粒平面に横一条の亀裂がすっきり通っている粒、着色粒は着色部分の大きさが直径１㎜以上かつ粒表面の２／３以下のものである粒をいう。

図２　令和８年産水稲の作況標本筆の 10ａ当たり収量の分布状況（北陸）

（生産者が使用しているふるい目幅ベース）

（10 月 25 日現在）



【管内各県の調査結果】

1　新潟県

(1)　水稲の主食用作付面積は10万4,400ha（前年産に比べ4,200ha減少）となった。これは、備蓄米等への転換があったことにより減少したためである。

(2)　生産者ふるい目ベースの10ａ当たり予想収量は518kg（前年産に比べ７kg減少）と見込まれる。
　これは、令和８年産作付面積において約８割を占める下越及び中越で、８月下旬以降の日照不足が影響したためである。

(3)　生産者ふるい目幅ベースの予想収穫量（主食用）は54万800ｔ（前年産に比べ２万9,400ｔ減少）と見込まれる。

(4)　作況単収指数は100と見込まれる。

(5)　なお、ふるい目幅1.70㎜ベースの10ａ当たり予想収量は535kg（前年産に比べ７kg減少）と見込まれ、予想収穫量（主食用）は55万8,500ｔ（同３万100ｔ減少）と見込まれる。

(6)　子実用作付面積は11万8,800ha（前年産に比べ1,100ha増加）となり、ふるい目幅1.70㎜ベースの予想収穫量（子実用）は63万5,600ｔ（同2,300ｔ減少）と見込まれる。

図３
新潟県の作柄表示地帯別
10ａ当たり予想収量（10月25日現在）
（生産者が使用しているふるい目幅ベース）

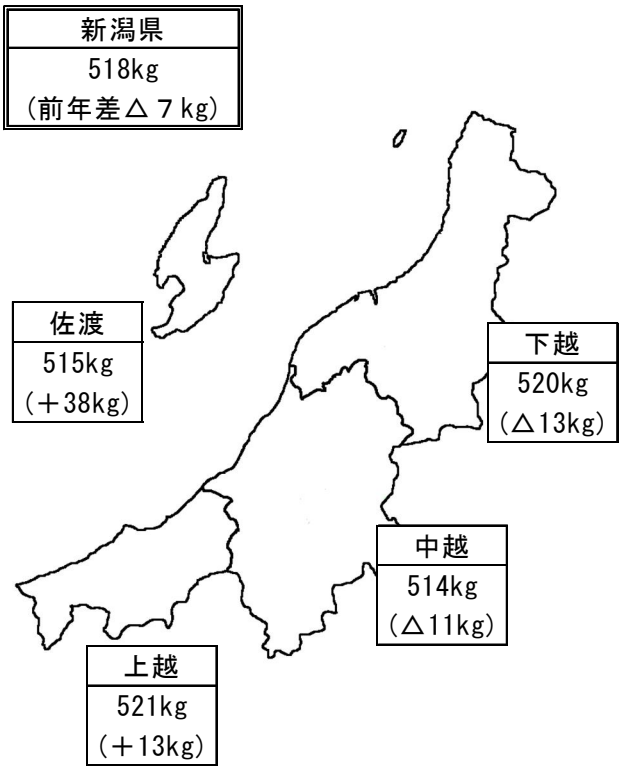
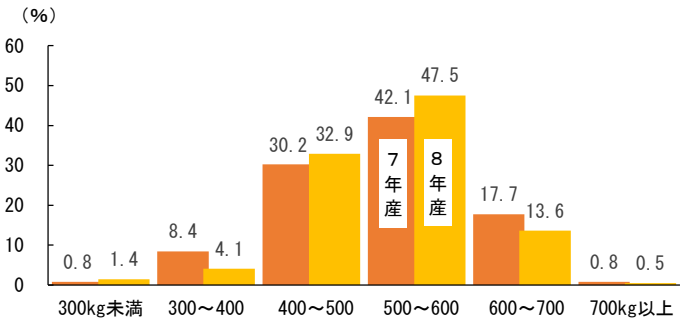


図４
作況標本筆の10ａ当たり収量分布状況（新潟県）
（生産者が使用しているふるい目幅ベース）
（10月25日現在）



2　富山県

(1)　水稲の主食用作付面積は３万3,400ha（前年産に比べ300ha減少）となった。これは、備蓄米等への転換があったことにより減少したためである。

(2)　生産者ふるい目ベースの10ａ当たり予想収量は524kg（前年産に比べ12kg増加）と見込まれる。

　これは、田植期以降の気温及び日照時間がおおむね前年を上回ったためである。

　なお、県西部の一部ほ場で大雨による被害がみられたものの、県全体の収量への影響は限定的となっている。

(3)　生産者ふるい目ベースの予想収穫量（主食用）は17万5,000ｔ（前年産に比べ2,500ｔ増加）と見込まれる。

(4)　作況単収指数は102と見込まれる。

(5)　なお、ふるい目幅1.70㎜ベースの10ａ当たり予想収量は562kg（前年産に比べ15kg増加）と見込まれ、予想収穫量（主食用）は18万7,700ｔ（同3,400ｔ増加）と見込まれる。

(6)　子実用作付面積は３万7,100ha（前年産に比べ1,500ha増加）となり、ふるい目幅1.70㎜ベースの予想収穫量（子実用）は20万8,500ｔ（同１万3,800ｔ増加）と見込まれる。

図５
富山県の作柄表示地帯別
10ａ当たり予想収量（10月25日現在）
（生産者が使用しているふるい目幅ベース）

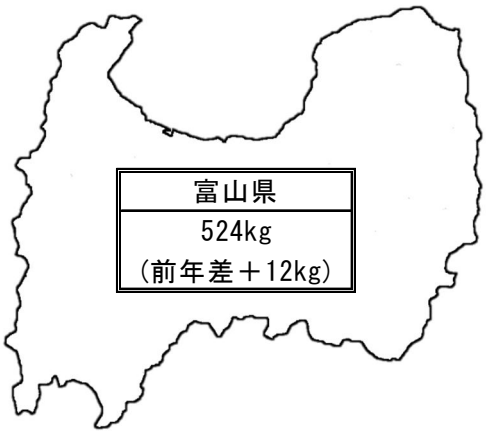
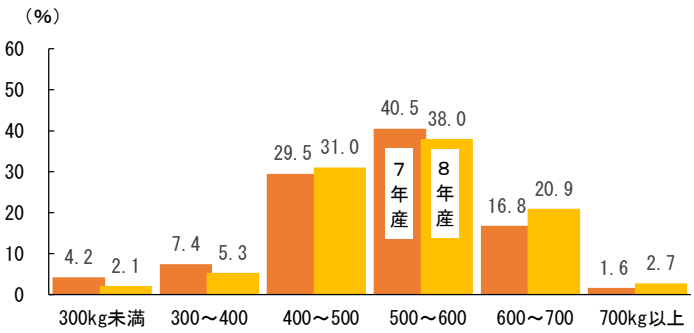


図６
作況標本筆の10ａ当たり収量分布状況（富山県）
（生産者が使用しているふるい目幅ベース）
（10月25日現在）



3　石川県

(1)　水稲の主食用作付面積は２万1,300ha（前年産に比べ800ha減少）となった。これは、備蓄米等への転換があったことにより減少したためである。

(2)　生産者ふるい目ベースの10ａ当たり予想収量は512kg（前年産に比べ５kg増加）と見込まれる。

　これは、田植期以降の気温及び日照時間がおおむね前年を上回ったためである。

　なお、能登地域の一部ほ場で大雨による被害がみられたものの、県全体の収量への影響は限定的となっている。

(3)　生産者ふるい目ベースの予想収穫量（主食用）は10万9,100ｔ（前年産に比べ2,900ｔ減少）と見込まれる。

(4)　作況単収指数は102と見込まれる。

(5)　なお、ふるい目幅1.70㎜ベースの10ａ当たり予想収量は538kg（前年産に比べ６kg増加）と見込まれ、予想収穫量（主食用）は11万4,600ｔ（同3,000ｔ減少）と見込まれる。

(6)　子実用作付面積は２万3,500ha（前年産に比べ600ha増加）となり、ふるい目幅1.70㎜ベースの予想収穫量（子実用）は12万6,400ｔ（同4,600ｔ増加）と見込まれる。

図７
石川県の作柄表示地帯別
10ａ当たり予想収量（10月25日現在）
（生産者が使用しているふるい目幅ベース）

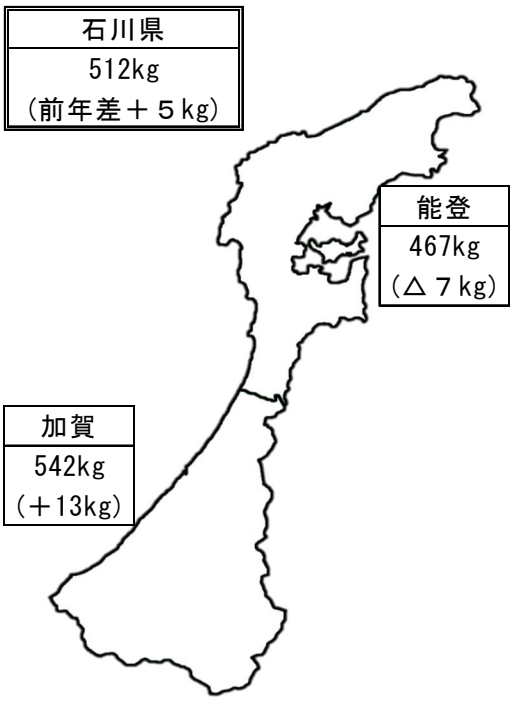
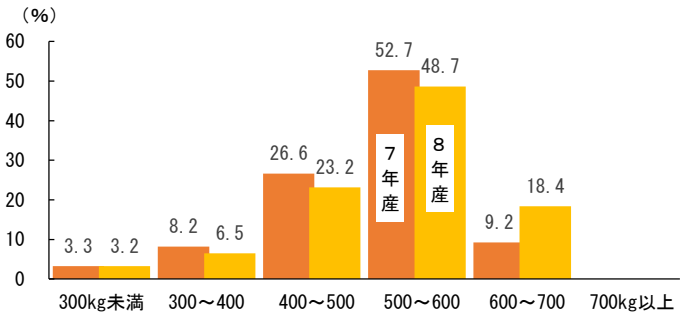


図８
作況標本筆の10ａ当たり収量分布状況（石川県）
（生産者が使用しているふるい目幅ベース）
（10月25日現在）



４　福井県

(1)　水稲の主食用作付面積は２万3,900ha（前年産に比べ600ha増加）となった。これは、他作物からの転換があったことにより増加したためである。

(2)　生産者ふるい目ベースの10ａ当たり予想収量は500kg（前年産に比べ４kg増加）と見込まれる。

これは、田植期以降の気温及び日照時間がおおむね前年を上回ったためである。

なお、嶺北地域の一部ほ場で大雨による被害がみられたものの、県全体の収量への影響は限定的となっている。

(3)　生産者ふるい目ベースの予想収穫量（主食用）は11万9,500ｔ（前年産に比べ3,900ｔ増加）と見込まれる。

(4)　作況単収指数は103と見込まれる。

(5)　なお、ふるい目幅1.70㎜ベースの10ａ当たり予想収量は533kg（前年産に比べ１kg増加）と見込まれ、予想収穫量（主食用）は12万7,400ｔ（同3,400ｔ増加）と見込まれる。

(6)　子実用作付面積は２万5,700ha（前年産に比べ1,200ha増加）となり、ふるい目幅1.70㎜ベースの予想収穫量（子実用）は13万7,000ｔ（同6,700ｔ増加）と見込まれる。

図９
福井県の作柄表示地帯別
10ａ当たり予想収量（10月25日現在）
（生産者が使用しているふるい目幅ベース）

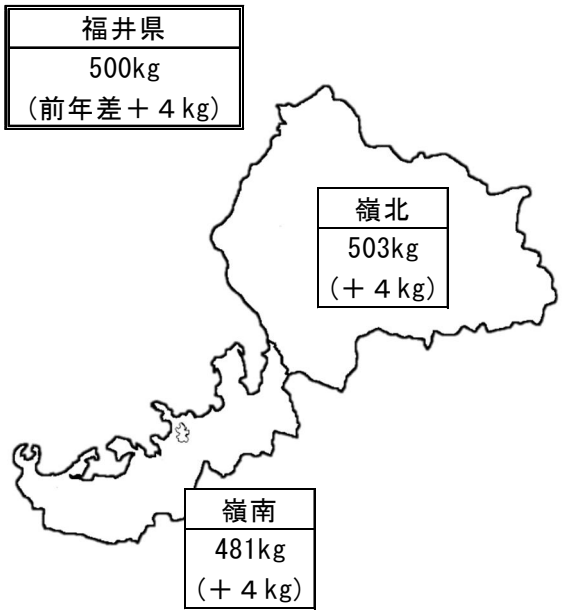
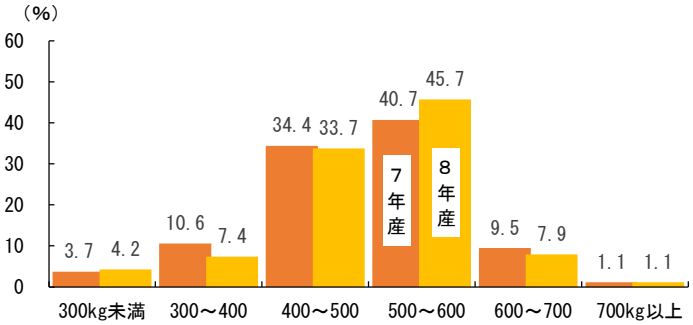
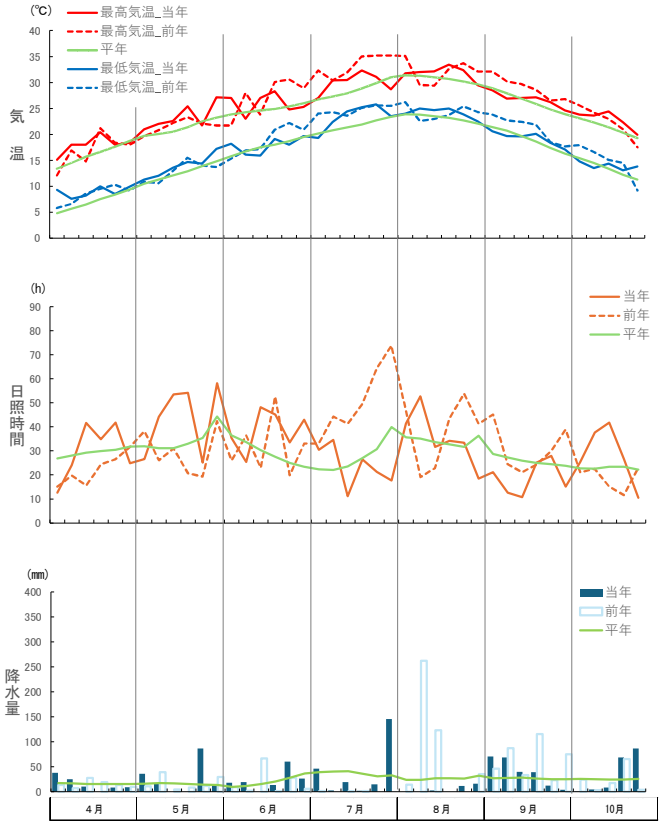


図 10
作況標本筆の 10ａ当たり収量分布状況（福井県）
（生産者が使用しているふるい目幅ベース）
（10 月 25 日現在）

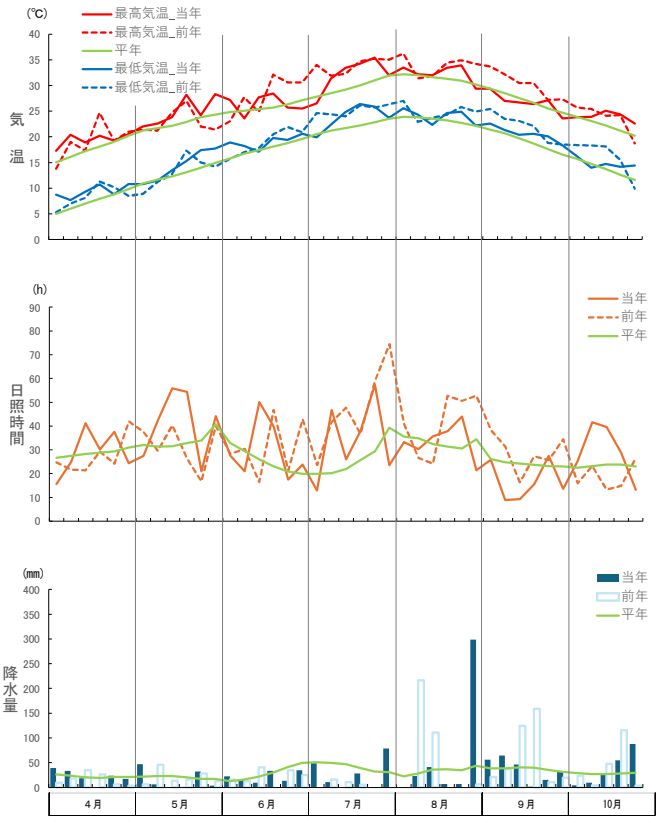


◎関連データ
令和８年アメダス半旬別気象グラフ

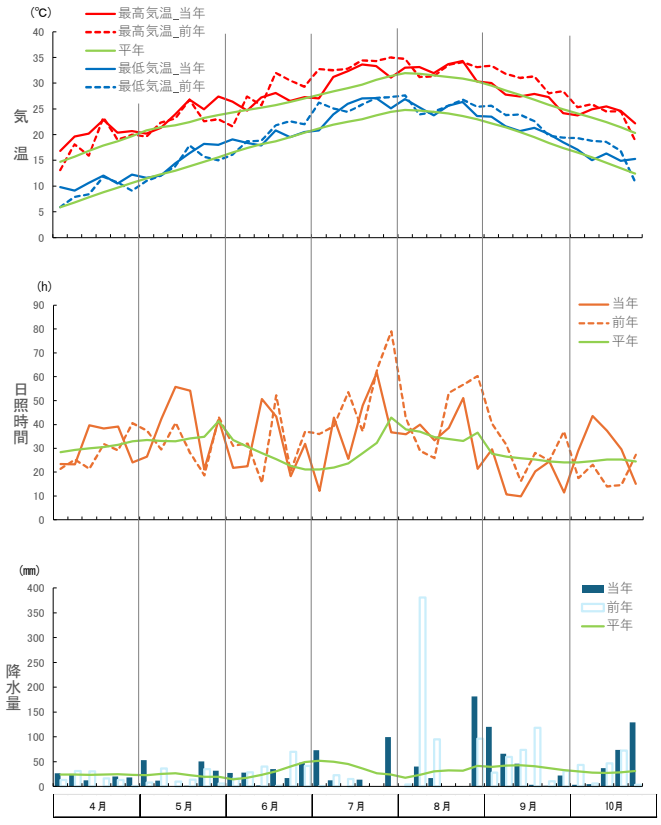
１　新潟



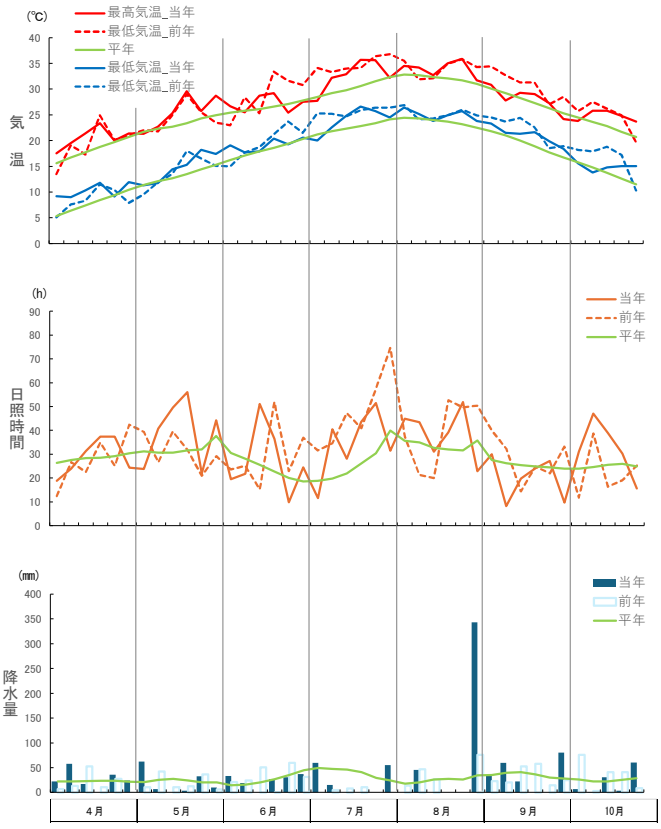
２　富山



３　金沢

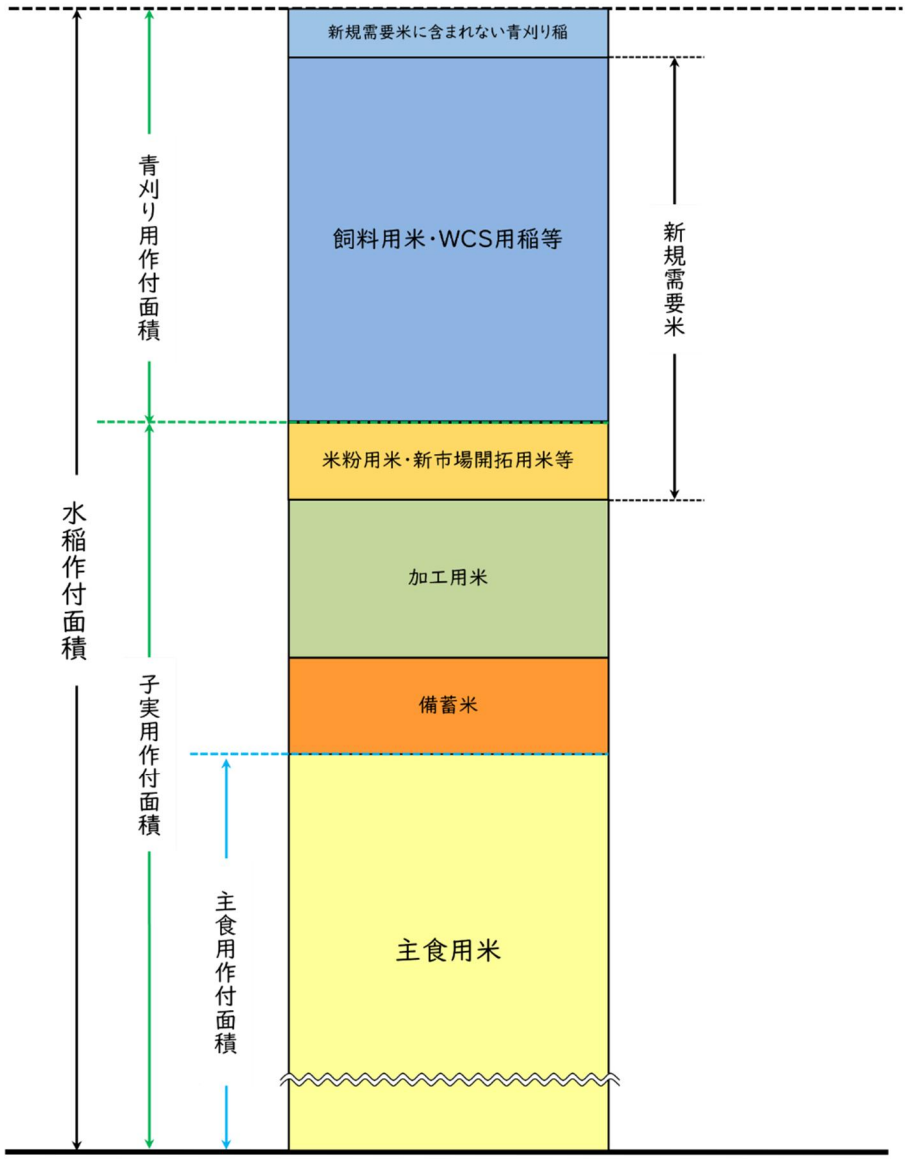


４　福井

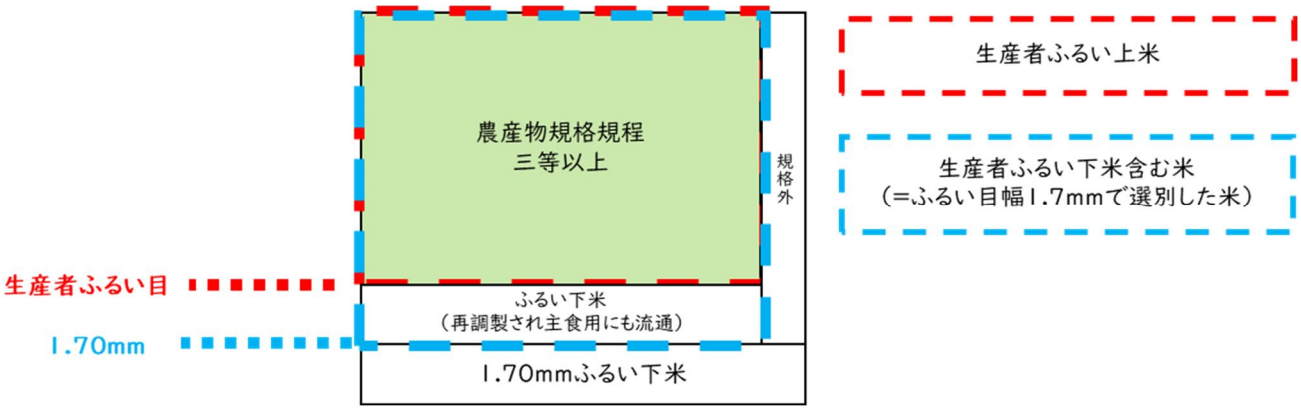


【参考１】

Ⅰ　水稲作付面積の概念図



Ⅱ　10a 当たり収量及び収穫量の概念図



【参考２】

刈取り調査における10ａ当たり収量の算出方法

作況標本筆（【参考３】参照）ごとに一定面積の稲を刈取り、農産物規格規程に定める三等の品位以上に相当するよう選別を行い、その重さを計測し、コンバインロス率及び被害率による補正を行い10ａ当たり収量を算出している（下図参照）。

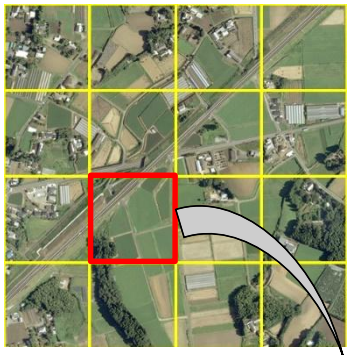


【参考３】

作況標本筆（ふで）とは

収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆（１枚のほ場を筆と呼ぶ。）は、各都道府県の水稲の状況が把握できるように、標本理論に基づいて次のように各地で選定し（北陸で 935 筆）調査している。

全国の全ての土地
（母集団）



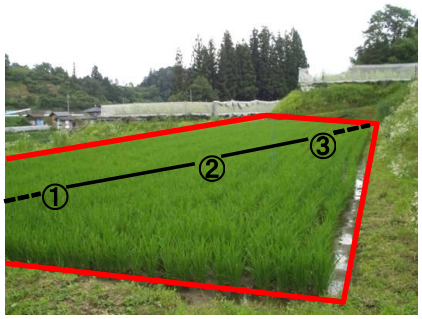
１　全国の全ての土地を 200m 四方（北海道は、400m 四方）に区切って編成した単位区のうち、水田が含まれる単位区を調査母集団とし、その中から、無作為抽出法（人間の恣意を排したくじ引きのような選び方）により「標本単位区」を選んでいる。

標本単位区
（200m 四方の土地）



２　標本単位区の中から無作為に１枚の水田ほ場を選び、「作況標本筆」としている。

作況標本筆
（北陸で 935 筆）



３　各作況標本筆の対角線上の３か所（①、②、③）を実測調査箇所として、調査箇所ごとに１㎡（合計３㎡）分のサンプル採取（坪刈り）を行っている。

【統計表】
https://www.maff.go.jp/hokuriku/stat/data/xlsx/suitou_20261025.xlsx

【調査の概要】

・面積調査

https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/menseki/gaiyou/

・作況調査（水陸稲、麦類、大豆、そば、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）
https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/gaiyou/

【水稲調査結果の主な利活用】
- 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成６年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針の策定のための資料
- 「食料・農業・農村基本計画」における品目ごとの生産量や作付面積等のKPIの設定及び検証のための資料
- 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- 農業保険法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業の適切な運営のための資料

【ホームページ掲載案内】
- 全国版は農林水産省ホームページの統計情報に掲載している分野別分類「作付面積・生産量、家畜の頭数など」、品目別分類「米」の「作況調査（水陸稲、麦類、大豆、そば、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）」で御覧いただけます。
https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/#y4

- 本資料のうち、作付面積は概数値であり、確定した詳細な数値は、ホームページに掲載（令和９年２月予定）します。
- 次回（収穫期）の公表は、令和８年12月上旬の予定です。
- 公表した数値の正誤情報は、ホームページでお知らせします。

【関連リンク】
農業生産振興関係ページ：農林水産省＞組織別から探す＞農産局
https://www.maff.go.jp/j/nousan/

病害虫に関する情報：農林水産省＞組織別から探す＞消費・安全局＞病害虫の防除に関する情報
https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/

※　上記リンクでは、病害虫の防除に関する情報として、総合防除の推進や発生予察事業による病害虫の発生予測等について掲載しています。
なお、「植物防疫年報」として公開している病害虫の発生面積は病害虫の発生予測の参考として調査を行っているもので、農作物の作付面積、収量等の調査を行っている作物統計調査とは調査目的や調査方法等が異なります。

お問合せ先

◎本統計調査結果について

連絡先：北陸農政局　統計部
　　生産流通消費統計課
電　話：（代表）076-263-2161　内線 3646
　　（直通）076-232-4895

連絡先：北陸農政局統計部（新潟県担当）
電　話：025-224-1441

連絡先：北陸農政局統計部（富山県担当）
電　話：076-441-0340

連絡先：北陸農政局統計部（石川県担当）
電　話：076-241-3175

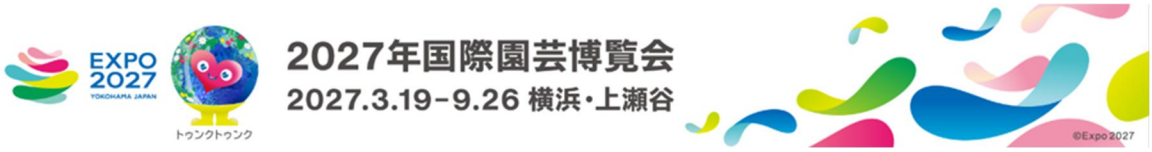
連絡先：北陸農政局統計部（福井県担当）
電　話：0776-22-3676

◎農林水産統計全般について

連絡先：北陸農政局　統計部
　　統計企画課　企画係
電　話：（代表）076-263-2161　内線 3622
　　（直通）076-232-4892

政府統計
政府統計の総合窓口
（e-Stat）
https://www.e-stat.go.jp/

SAFF
データの力で。
農林水産統計
Statistics of Agriculture, Forestry and Fisheries



○オンラインコミュニティ「みのりボイス」の開設について

水稲生産者や関係機関の皆様が参加できるオンラインコミュニティ「みのりボイス」を開設しました。生産者・農業関係者ならどなたでも参加でき、皆様から共有いただいた全国各地の生育状況や被害情報などを地図上で確認できるほか、農業ニュースや気象情報も閲覧でき、日々の営農判断にもご活用いただけます。

以下のURLまたは右側の二次元コードから、ぜひご参加ください。

https://minori-voice.maff.go.jp/lp/

○水稲収穫量調査の試行調査について

一部の水稲生産者の方々を対象に水稲収穫量調査の試行調査を実施しております。

調査時期　令和8年9月、10月、11月の3回

調査方法　統計調査員による聞き取り、オンライン、郵送のいずれか

オンライン、郵送調査は農林水産省作物統計調査第２次試行調査事務局により実施します。

お忙しいところ大変お手数をおかけしますが、ご協力をお願いいたします。